

堺市市民交流広場活用PJ



活動の目的

- 1 | 堺市市民交流広場の空間の持つ良さを生かした広場活用提案の実践
- 2 | 提案実施を通じた地域の横断的なつながりを生み出すこと

連携にいたる経緯

堺市と関西大学との地域連携事業の一環で、様々な地域で空間を活かした活動を実践している建築環境デザイン研究室が中心となり、堺市市民交流広場の活用を考えることになった。

活動内容

2016年からスタートした活動で、1年目は広場空間の活用実験を行った。まず、広場には常にビル風が吹き、広場空間として機能しにくい状態にあることに着目し、建築環境デザイン研究室と建築環境工学第III研究室が協働で風の調査を行った。それをもとに、「堺 風のまちひろば」と題し、風を分散させ弱めつつ賑わい感のある広場空間を生み出す装置を設置した。当日はかざぐるまによる風の可視化、かざぐるま作りワークショップも行い、人が関わることのできる広場空間を作り出した。

2年目は広場活用を通じた地域間の交流を生み出した。建築環境デザイン研究室が活動フィールドとしている地域の方々とのつながりを活かし、「豊かな食と木のある暮らし」をテーマに丹波市、堺市、河内長野市をつなぐ機会として「タンバが堺にやってくる」を開催した。丹波からは野菜やアマゴ、木材を持ち寄り、河内長野市からは、木材とそれを使ったワークショップを行い、地域間の人的・物的交流の機会を作り出した。(関谷大志朗／関西大学佐治スタジオ)

活動の成果

- 1 | 広場空間のあり方・可能性を探る提案を実施できたこと
- 2 | 丹波、堺、河内長野の人的・物的地域間交流を実現できたこと

今後の課題・目標

- 1 | 定常的な広場空間の実現
- 2 | 堺市の地域団体や近隣商店街との連携

DATA

●主な連携先・メンバー

関西大学建築環境デザイン研究室／堺市／河内長野市／佐治倶楽部＋ソシエテ・リベルテ(丹波市)／おおさか河内材販売促進協議会／河内長野市林業総合センター「木根館(きんこんかん)」

●活動地域

堺市市民交流広場Minaさかい

●活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業



学内でも議論を重ねる



風や光などを活かして広場空間をつくる



人的・物的な地域間の交流

●教員紹介



環境都市工学部 教授 江川 直樹(えがわ なおき)

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学大学院修士課程修了。77年(株)現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。